二松學舍大學
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成18年7月31日発行
(第53号)
二松学舎大学父母会
(本　部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL 04(7191)8756
二松学舎大学柏教学課
題字は
故 観山貞廣常吉先生書

平成十八年度 定期総会開催

田村紀之教授による講演

平成十八年五月二十七日（土）、九段校舎五〇七教室において、平成十八年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、十三時三十分から本学国際政治経済学部教授田村紀之先生による「韓末期の青春群像」と題した講演会が行われた。韓末期に活躍し、後世に名を残した人々の青春期に視点をあて、考察していく講演に出席した父母は熱心に聞き入っていた。

十五時、役員の高梨洋子氏の司会で総会が開会された。高橋会長の挨拶、大学を代表して今西学長の挨拶の後、星野早苗氏が議長に指名され、議事に入った。

議事は、第一号議案平成十七年度事業報告並びに決算、第二号議案平成十八年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ承認された。第三号議案の平成十八年度役員選出では、会長に清水忠氏、併せて、会計監査に小川実千江氏・寺崎美智子氏が決定した。

議事終了後、平成十七年度をもって役員を退任された高橋妙子氏、青木紀久江氏・石村かよみ氏・加藤八穂氏・北原和茂氏に今西学長から感謝状の伝達と記念品の贈呈が行われた。

総会終了後、場所を十三階ラウンジに移して、十六時から懇親会が開催された。総会終了後の和やかな雰囲気の中で、同郷・同学年同士、そして教職員と履修の方法や大学生活について懇談している父母の姿があり、盛会のうちに終了した。

総会後の懇親会

高橋会長の議案説明(総会)

身近な父母会として更なる発展を

父母会会長　清水　忠

新入生のご父母の皆様、お子様の御入学おめでとうご座います。また、父母会へのご入会を心から歓迎致します。

過日の定期総会にて私を始め新役員と予算・事業の承認をいただき、平成十八年度の活動がスタート致しました。代々の会員の力を集めて築かれてきた二松学舎大学父母会の一層の発展のため、本会の目的達成のため、手を取り合って努力して行きましょう。何卒、ご理解とご協力、そして、忌憚のないご意見を多数お寄せ戴きますよう、お願い申し上げます。

総会のご挨拶でも触れましたが、会則によれば、本会の目的は、本学と父母との連絡を緊密にして、学生に対する教育指導の徹底と、本学に対する支援の充実強化を図り、併せて会員相互の親睦に資する事です。

これらを実践するために、父母懇談会の開催、本学の教育研究充実に対する支援、学生の課外活動などに対する支援、学生の福利厚生に関する事業、父母会報の発行、その他本会の目的を達成するための事業を行う、となっています。

さて、柏校舎の施設設備の補充の手伝いも終わり、今後、授業の疲れがとれる花壇に満ちた校庭を学生諸君に提供してあげたいと言われていますし、昨今は、勉学成就が厳しくなってきている、特に卒業を目前にして経済的に破綻し、卒業不可能になる学生諸君が大勢いるようになったということも聞きます。奨学金的な援助も必要になってくると思います。更に、卒業後の就職については、もっとも親として力を入れていきたいところ。問題山積して道遠しです。

新役員紹介　役員に就任して

雨海　洋子

本年、父母会役員をお引き受けすることになりました。私に役員が務まるであろうか、不安がありますが、微力ながら父母会のお役に立てればと思っております。

先輩役員の皆様方の御指導のもと父母会活動を努めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

高須　文子

大学や父母の皆様とのコミュニケーションを密にする事により、学生達の生活する環境を知る機会が増えそれをリアルに体感できる事は、これから巣立つ子を持つ親として、貴重な経験だと思います。この機会を得られた事に感謝し、今の私に出来る事をお手伝いしていきたいと思います。よろしくお願い致します。

坂巻　祐子

今般、父母会役員を務めさせていただくことになりました。

子供たちが充実した学生生活を送れるよう、出来る限りのサポートをしていきたいと思います。

父母会役員の皆様の足を引っ張らぬよう精一杯努めさせていただきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

多田　博子

昨年、受験を前に二松学舎祭に参りました折、父母会の方々より暖かいお声をかけて頂き感動いたしました。そんな私が、今年は父母会のお仲間に入れて頂く事になり大変光栄に思っております。諸先生方、先輩役員の皆様に、お教え頂き頑張ってまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

福井　文子

本年度父母会の役員を務めさせていただく事になりました福井です。

高校に続き大学もお世話になる事となり、少しでも皆様のお役に立てればと思い、役員を受けさせて頂きました。何分にも始めての事ですので、先輩の役員の方々のお手伝いを少しでも出来る様頑張らせて頂きます。

山岡　英夫

息子が今年から新入生としてお世話になることになったばかりですので、父母会についての知識はほとんどありませんが、柏校舎に比較的近いということもあり、役員をお引き受けいたしました。微力ではありますが、一人の親として、少しでもお役に立てればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

ごあいさつ

「夏休みを有効に」

理事長　佐藤　保

大学はもうすぐ夏休みに入ります。学生諸君はみな、夏休みを一日千秋の思いで待っているはずです。

父母のみなさまもおそらくは経験されているように、学生生活の思い出は夏休みに作られることが少なくありません。

約二ヶ月に及ぶ長い休暇は、学生諸君にとって、クラブやサークルなどの合宿、あるいはアルバイトなど、普段は時間がなくてできないことをするのに絶好の、貴重な時間です。

夏をうまく過ごすか否かは、秋からの学園生活に大きな影響を与えます。もちろん心身のリフレッシュをはかることが第一ですが、夏の間になにか一つでも新しい技能や知識を身につけることができれば、それは最高の夏休みと言えます。

ただ四年生の諸君は、就職活動や卒業研究で他のことを顧みる余裕はないでしょう。ぜひとも最後の夏を有効に過ごして欲しいと希望します。

大学もまた、夏休みを利用して、秋の諸行事―公開講座、昨年に続くシンポジウム「論語」、新たに企画された漢詩コンクール等々―の準備と、学内の必要な設備備品類の整備を進める予定でいます。

夏休みは、学生諸君にとって次の大きなジャンプに備える期間です。父母の皆さまも、どうぞ温かい眼でお子さまたちの夏休みを見守っていただきたいとお願いいたします。

「柏キャンパスの環境整備ほか」

学長　今西幹一

六月、平成十八年度も折り返し点に達しようとしています。父母会会員の皆様には、ご清栄のこととお慶び申し上げます。学生諸君も、大方が上半期の学生生活を順調に送ってくれているものと信じております。

明年、本学が漢学塾二松學舎としてスタートしてから創立百三十年目を迎えます。また、戦後の学制改革で大学に移行して五十八年目を迎えます。

記念すべき年にあたって種々の行事、事業を企画し、二松學舎の存在を世に知らしめるとともに、教育研究の設備、制度の整備、そしてその内容の質的な充実を計る所存でおります。

父母会の方は、夏休みを前にして地区別の懇談会のシーズンが始まりました。九段、柏で関東地区の会を開くとともに、全国七地区で府県単位の懇談会を開くことになっております。学長を先頭に部局長が手分けして会に出席することになります。地域によっては会員は決して多くありませんが、その分出席率も高く、膝を交えるようにして眤懇に話し合える利点があります。皆さん、二松學舎への期待と注文、時に厳しいものがあります。多くの大学の中から二松學舎を選択して子女を送って下さっているだけに、二松學舎に愛情をもって、有益なご高見を賜わることは有難く、感謝しております。

今年は柏キャンパスの環境・設備の整備、美化に力を注ぎたいと考えています。ご支援下さい。

平成18年度　二松学舎大学父母会定期総会議事録（抄）

日　時：平成18年5月27日(土) 13：30～17：30
場　所：九段校舎　507教室
講　演：「韓末期の青春群像」
　　二松學舎大学教授　田村　紀之先生
出席者：本年度会員数　3,041名
　　委任状　　1,176名
　　出席者　　60名　　合計1,236名
大学側：今西学長、渡辺副学長、渡邊学務局長、小林学務局次長
　　五十嵐教学部長、高柳柏教学副部長、横谷教学課長、
　　志村柏教学課長、畠山柏教学課専門員、村瀬柏教学課員

1．開会の辞　　司会　高梨洋子

◇父母会長挨拶

定期総会にご出席いただきまして有難うございました。会長任期2年にわたり、初めてのお仕事でプレッシャーに押しつぶされそうになった時、役員の皆様方にいろいろ助けていただきました。そして、全国にまたがる会員の皆様のご理解・ご支援によって今日まで父母会が成り立ってきたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。父母会は平成5年に発足したと伺っておりますが、なかなか今の時代、大学もそして父母会も学生のあり方もいろいろ社会のニーズに応えていかなくてはならない難しい環境の中で過ごしているような気がいたします。本日、事業報告・決算報告・予算案、そして事業計画案につきましてご報告申し上げますのでご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

◇学長挨拶

本日は天候不順な中、多数お集まりいただき有難うございます。この機会をお借りいたしまして、一言ご挨拶と感謝の言葉を述べさせていただきます。

本年、新入学生と編入学生とを合わせ、774名の方々が父母会の新入会員になられたわけであります。今年度、多くの子弟の方が二松学舎の門をたたいていただいたこと、それは取りも直さず、本学に対して多くの方が理解をしていただいたことだと、改めて感謝申し上げたいと思います。

ご承知のように、今は少子化の時代で、どこの大学も苦難の時期を迎えておりますが、幸い二松学舎は、堅実に多くの子弟の方々から受験生を送られ、その中で大学経営に当たれるということは、大変恵まれた状況ではないかと思います。

今、高等学校の統廃合が非常に盛んになっております。少子化の状況下、勝者敗者がはっきりして来たんだろうと思います。大学の場合も例外ではなく、後何年かすれば、大学淘汰の時代が始まるかも知れない。その時に大学が生き残れるかどうかは、矢張り勝者敗者がはっきりした段階で結果として出てくるんだろうと思います。

二松学舎は創設されて明年130年になりますけれど、大学を創設された意味を問い直す中で、今後の存続を図っていかなくてはならない。又、昨今人間が最も大切に持たなければならない内面的な価値とか、社会的な通念の上で大切なものが見失われてきている。涵養の確保の気運が高じております。そういう所に繋がるのが、二松学舎の建学の精神であろうかと思いますから、今後改めて二松学舎の真価が見直されていくんではないかと思っております。

一昨年度から、皆さんご承知のCOE、先進的な21世紀の学問のプログラムを構築する大学に文部科学省が、数多い私学の中で二松学舎が日本漢文学研究の世界的な拠点の構築というテーマで採択されています。今年は、その中間評価があります。大学はいわゆる第三者評価を今年度受けることになって、既に書類を提出しております。これも先程申し上げました勝者として大学が生き残っていく一つのステップであろうと思っています。

父母会の役割は、一つには父母の方の連携を深めていく、或いは親交を深めていく要素があろうかと思います。今年度も例年通り地区別父母懇談会を開催し、夏に各地方へ手分けしてまいります。本日来られない地方の方に大学の実情等説明申し上げて理解を深めてまいりたいと考えております。

その他、いろいろなバックアップをしていただいております。総会後の懇親会を通して、私共に対するご要望とか平素の教育研究に対するご疑念等がございましたら、ご質問やご意見をいただきましたら、私共も誠心誠意お答えしたいと考えております。会員の方々、大学の教育研究を盛り立てていただく為に様々な形でご協力をいただきたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

2．議長指名

司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっており、会長より星野早苗さんが指名されているので、星野議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、星野氏が席に就いた。

3．書記・議事録署名人指名

星野議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書　　記　　北原和茂氏
議事録署名人　　川名じゅん子氏、新澤雅子氏

4．議事

◇第Ⅰ号議案（平成17年度事業報告並びに決算）

高橋会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて加藤会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案（平成18年度事業計画並びに予算）

高橋会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅲ号議案（平成18年度役員選出）

議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員（会長・会計監査）を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼をうけた大学側（渡邊学務局長）より次の各氏が推薦された。

会　　長　清水忠氏
会計監査　小川実千江氏　寺崎美智子氏

議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

つづいて清水会長より就任の挨拶があった。

議事終了後、下記の退任役員へ今西学長より感謝状と記念品が贈呈された。

高橋妙子氏、青木紀久江氏、石村かよみ氏、加藤八穂氏、北原和茂氏

5．閉会の辞　　司会　高梨洋子

◇懇親会

九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。
17時30分盛会のうちに終了した。

議　　長　星野　早苗
議事録署名人　川名　じゅん子
〃　　新澤　雅子
書　　記　北原　和茂

平成18年度　総会余滴

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見をまとめました。紙面の都合によりすべてを掲載することはできませんので、ご了承ください。

○大学に父母会があることに驚いております。（国際政治経済学部一年）

○いつもご苦労様です。学校の案内や催し物など、いろいろな面で大変だと思いますが、私共の子供達の為に本当に有難うございます。（文学部二年）

○平成十八年度の学年暦、とてもわかりやすく書いていただいて嬉しかったです。子供からは、おおざっぱにしか年間の予定表が開けなかったので、予定が立てられてとても助かります。これからも、大学で子供達の学生生活がより充実したものになるようよろしくお願いいたします。（文学部一年）

○講義を取るために抽選があり、一・二年次とももれてしまってダブルキャンパスになってしまったという話を聞きましたが。二年生に優先の枠を――。（文学部二年）

○学生の禁煙対策をどうお考えでしょうか。（文学部一年）

《父母会より》

本会は、平成五年四月に二松学舎大学と学生の父母との連絡を緊密にして、学生に対する教育指導の徹底と、本学に対する支援の充実強化を図り、併せて会員相互の親睦に資することを目的として設置され、本年で十三年目となります。

事業内容には、地区別父母懇談会の開催・課外活動に対する支援・学生の福利厚生に関する事業等が予定されていますので、よろしくご協力ください。

《大学より》

履修登録手続き後に、二年次生に対しては、今年度履修登録の結果で、来年(三年生となった時点)も柏校舎の開講科目を履修する必要がある学生については、掲示により教学課に申し出るよう指示し、履修が可能な限り教学課で対応しております。（ただし、一年次の成績結果、修得単位数が不足する場合等は対応できない場合もあります。）

禁煙対策については、九段・柏両校舎共に校舎内を全面禁煙としております。又、所定の灰皿設置場所以外での喫煙者には注意するなどしておりますが、校舎の外を含めたキャンパス内全面禁煙には至っていないため、喫煙場所を変えるなど検討することになっております。

柏校舎に設置していたタバコの自動販売機は撤去いたしました。

講演会

総会

懇親会

平成18年度役員

氏　名		学生の所属		氏　名		学生の所属	
清水　忠	会長	中国文学科	3年	新澤雅子	委員	国文学科	2年
川名じゅん子	副会長	中国文学科	4年	星野早苗	委員	国文学科	2年
渡邊　了好	副会長(学務局長)			高須文子	委員	国際政治経済学科	2年
小川　実千江	会計監査	国文学科	3年	山岡英夫	委員	国文学科	1年
寺崎美智子	会計監査	国際政治経済学科	3年	福井文子	委員	国文学科	1年
佐藤理栄子	委員	国文学科	4年	坂巻祐子	委員	国文学科	1年
高梨洋子	委員	国際政治経済学科	4年	多田博子	委員	中国文学科	1年
雨海洋子	委員	国際政治経済学科	3年				

大学に入学して

桜花爛漫の四月の入学式からはや三ヵ月余。七六五名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会う、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科から三名の新入生に書いてもらいました。

国文学科　田村緒

二〇〇六年四月。まだ着慣れないスーツに袖を通し、これから始まる華の大学生活に胸を躍らせて、私は入学式に臨んだ。

高校の時の恩師からは、大学という所は自由で楽しいというふうに何ついていたため、キャンパスライフにおいて苦労することなどないと思い込んでいたが、現実は甘くなかった。

以前までは指定された授業を受けさえすればよかったものが、大学では各自の裁量で出席する講義を決定しなければならない。卒業単位を取得しつつ、将来希望する職業に就くのに必要な資格を得るためには、一年のうちから先のことを考えていなければならないのだ。入学して早々、自分が刻一刻と社会に適する大人に近づいていることを痛感させられた。

また、講義の形式も高校の授業とは異なり、大教室でたくさんの受講者と共に学習しなければならない。初めのうちは慣れない講義の形式に戸惑ってしまい、講義の内容を理解するのに必死だった。自己責任を重んじる大学において、講義の内容を理解できないということは自分の過失であり、それに対して何らかの解決策を練ることにも能動的でなければならない。入学当初はこれらの問題が重くのしかかり、私は周囲の環境を上手く把握できていなかったと思う。

しかし、およそ三ヵ月経った現在、徐々に周囲が見えてきたような気がする。大学には私とは異なった考え方や生き方をする者がたくさん存在し、大学という独立した社会の中で共に生活している。そうした中で物事に対する多面的な考え方に触れることができ、また、自分の新たな一面を発見することもできる。そうしたことの反復によって、他者と異なる個性を持った「自分」という存在を確立することができると共に、社会人になるにあたって望ましい柔軟さを身につけることができるのではないかと思う。そうなるためにも、四年間の貴重な大学生活を有意義に過ごしていきたいと思う。

中国文学科　田中伶佳

早いもので、もう春セメスターの終わりが近づいています。今までにない長距離の通学と大学という場に慣れるということだけで精一杯で、何もできなかったという焦りばかりが残っています。

大学に入学してまず感じたことは、高校と大学の違い、「学びにいくところ」と「自ら学ぶところ」の違いでした。英語は高校でも学んだ外国語ですが、テキストを読むだけではなく、生きた英語を話す人や機会に自ら接していく、そういう積極性が大学では必要なのだということをなんとなく感じました。この違いは積極的という言葉が全く当てはまらなかった私にとって、非常に大きな違いでした。

情けない話ですが、この春セメスターが終わる頃になって、やっと学習に対する積極的な姿勢というものが身についたところです。すると、面白いことが起こりました。心地よい子守唄であった講義は興味をそそられる話に変わり、知らないことを知ることへの楽しさが湧いてくるようになったのです。同じ講義というものが、姿勢の違いでこれほど変わってくるものなのかと我ながら驚きました。これから先、このとき感じた「知」の楽しさを忘れず、大学四年間だけではなく生涯学び続けていきたいと思っています。

大学に入っての学習以外の目標としては、多くの友人を得ることです。これまでと違い、大学は全国から学生が集まっています。当然、私が全く知らない文化やものの見方、捉え方などが数多くあるはずです。私は多くの仲間の学生と交流を深め、人間性を磨いていきたいと思っています。同時に自国(日本)への理解も深めていきたいと思っています。今、海外に多くの目が向けられていますが、自国への理解が不十分では、他国間での真の理解は難しいことです。まずは日本人らしい日本人を目指す。これも目標の一つです。

大学の四年間は高校三年間よりも短く感じると聞きました。その短い四年間をみっちりと実の詰まった四年間にしていきたいと思います。

国際政治経済学科　小林優

二松学舎大学に入学して約半年が経ちました。大学での生活は初めてのことが多く、毎日ワクワクすることばかりです。授業は高校生の時より三十分以上長くなりました。初めは授業を受けることが幸いこともありましたが、授業からは多くのことを学ぶことができ、自分の知識を増やす糧となっております。

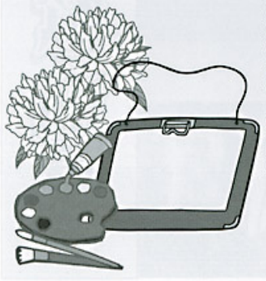
『何事にも最後まで諦めずに頑張る』これが私の大学での目標です。今までは、できないと思うと、諦めてしまうことが多かったのですが、大学では自分のできる限界までチャレンジしてみようと考えています。

私は将来公民の教員になりたいと思っています。生徒に夢や希望を与えられるような教員になりたいと思います。この目標を達成するためには、今まで体験したことのないような多くの困難を乗り越えなければならないでしょう。しかし、この壁を諦めずに乗り越えることで、また一歩成長することができると思います。

一度しかない大学生活を有意義に過ごす方法は人それぞれです。新しくできた気の合う友人たちと過ごしたり、サークル活動や勉学に励んだり、学園祭などの行事に参加することであったりと、どれも今しか経験できない貴重な思い出作りであり、これから社会へ出る上で大切な経験です。

部活やサークルに参加することでできた素晴らしい友人と共に汗を流し、互いに支えあい、辛い練習を乗り越えていくことが私にとって大学を有意義に過ごす方法です。私はここで自分の力を存分に発揮し、新たな自分発見ができれば良いと考えています。

二松学舎大学は小さな大学です。この小さな大学でしか手に入らないものを手に入れ、自分の力にしていきたいと思っています。



キャリアセンターだより③

本学四年生の企業への内定状況は、就職希望者の五割といったところです。今年度は企業側の採用開始が非常に早く、内定出しもゴールデンウィーク明けがピークで、かなりの企業が六月或いは七月中には採用を終了するものと思われます。しかし、本学ではまだ五割の未内定がおります。その理由は、就活前の準備不足や人気業種（出版・広告）に絞った活動などがあります。また、教員免許取得を目的とした教育実習のために、企業への就活が遅れたことも挙げられます。

キャリアセンターには、本学の学生を是非採用したいという企業からの求人票が数多く届いております。万全の体制でフォローいたします。お子さんが内定していないようであれば、キャリアセンターに行くようにお話し下さい。

公務員については、警視庁をはじめとして警察官試験一次合格者八名（報告分のみ）となっております。今後は市役所試験等が始まれば合格者数が増えることと思われます。なお、公立学校の教員採用試験は七月中に実施されます。本当に教員になりたい四年生は、最後の追い込みを行っています。

三年生から一年生については、夏期（八月一日～三日）に就職特別講座として、面接特訓講座（三年生）を実施します。本学学生は就職面接を特に苦手としているので、本講座の受講は不可欠です。一・二年生には、就職活動基礎知識やビジネスマナーの講座を実施いたします。十月からは、二・三年生には、個人面接を実施します。

企業への実際の就職活動は三年の三月ですが、事前準備は既に二年生から始まっています。教員や公務員を目指すための受験勉強も二年生からスタートしなければ間に合いません。

お子さんがどのような進路を考えているのかを、この夏期休暇中に是非話し合って下さい。そして、お子さんの進路実現にご協力をお願いいたします。

新入生歓迎会

新入生歓迎式典を終えて

こんにちは。学生会執行委員会で会長を務めております、高篠遼平と申します。まず最初に、乱筆・乱文でお見苦しい文章になってしまうであろうことを御了承下さい。

去る平成十八年四月八日、我が二松学舎大学柏キャンパスにて、毎年恒例となっている『新入生歓迎式典』、通称『Welcome祭』が行われました。

我が校のクラブ・サークル団体による五〇一教室でのPRステージや、教室・中庭での勧誘など、春の桜の美しい柏のキャンパスはとても賑やかな様相を見せました。

在学生たちは活気にあふれ、新入生たちの表情は、これからスタートするキャンパスライフへの期待に満ちあふれている様子でした。

そもそもこの『新入生歓迎式典』という行事は、新生活をスタートする新入生の方々に、より良いスタートを切ってもらうために始まった企画でした。大学生活におけるクラブ・サークルへの参加というものは、青春のとても大きな部分を占める重要なファクターであると思います。二松学舎大学の多彩なクラブ・サークル活動を知ってもらい、無限の可能性を秘めた四年間を楽しむためのエッセンスにしてもらえたら、というのが私たち学生会執行委員会が共有した信念であり、そのためにポスターコンテストという新企画も用意しました。あいにくの強風のために看板が大破してしまうというアクシデントも発生しましたが、役員一同、そして参加していただいた各クラブ・サークル団体の熱意と頑張りにより、とても良い形で式典を終えることが出来ました。

いくつかの課題を残し、新入生歓迎式典は終了致しました。

GUTS!2006 開催

大改革の『GUTS2006』文化の部

今年度の学生会執行委員会で渉外を務めさせていただいている齊藤建守と申します。まず始めに『GUTS2006』文化の部を六月十八日、球技の部を六月二十四日・六月二十五日に無事開催、終了できたことを報告いたします。

前期最大のイベントである『GUTS2006』ですが、今年度から『GUTS』ならではの新たな企画を文化の部で立ち上げました。

まずは「季節はずれのもちつき大会」その名のとおり、柏校舎の中庭で餅をつき無料で配布するというイベントです。当日は残念なことに雨の中での餅つきとなってしまいましたが、テントの中で一生懸命ついたお餅はとてもおいしく、大好評でした。

「七夕前奏曲」と題した七夕企画も行いました。校内のあちこちに学校の敷地内で採取した笹の代わりに竹を設置し、短冊などを飾りました。多くの学生や来場者の方々に短冊を書いていただくことができ、大成功に終わりました。

さらに二号館の一階に簡易ステージを設置し、団体の発表場所として提供した「セカンドストリート」も来場者の方々に好評を頂くことが出来ました。

今回、これほどの新企画を行った『GUTS2006』文化の部を大成功で終わらせることが出来たのは、参加した一般学生は勿論、教学課をはじめとした多くの方々の協力があったからだと思います。『GUTS2006』の運営にあたり協力してくださった皆様に学生会執行委員会一同、心より御礼を申し上げます。また今年出た反省点や課題等は、これからの学生会行事に反映させたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

もちつき大会

『GUTS2006』球技の部を終えて

一年　黒澤　遼

今年も例年通りに『GUTS2006』球技の部が六月二十四日・二十五日に開催されました。心配されていた天気ですが、天気予報を覆して雨は降らず、無事に全競技が予定通りに行なわれました。

今回行われた競技は全部で四種目。三号館体育館にて、フットサルとバスケットボール。グラウンドでは、ソフトボール。そして附属高校の体育館ではバレーボールを行いました。

今回の参加者の合計人数はなんと五七二名(学生会執行委員会調べ)と例年よりも多くの参加者を集めることができ、しかも競技中に大きな怪我人を出すことも無く、参加者全員が楽しめた球技の部であったと思います。

今回の『GUTS2006』は、いくつか反省するべき点はありましたが、全体的に大成功で終わることができたと思います。今後の行事運営に、今回出た反省点を解決していきたいと考えていますので、これからもよろしくお願いいたします。

ゼミ探訪

《原ゼミナール》(中古文学①)

原先生が初めて受け持った新しいゼミです。現在一期生となった四年生十四名に、三年生二十四名が加わり、活気に溢れています。

このゼミでは、『枕草子』を題材にグループ・個人発表を主に行っています。ゼミ生自身が調査研究する章段を一つ、もしくはテーマを決めて発表するのですが、この作品は一見一貫性がないようにも見える程内容が幅広く多彩です。どのような点に注目するかによって、様々な論が導き出されるため、私たちの研究発表は個性豊かなものとなっています。自分一人の研究調査だけでは辿り着けない解釈・方法論が次々に出され、毎回新たな観点を得ることができます。

そして、原先生はクールなようで実は熱い先生で、私たちの研究発表に対して、次の段階へ進むための指導をビシビシとして下さいます。曖昧な点・説得力に欠ける点は鋭く指摘され、導き出した結論から新たに浮かぶ疑問について言及されます。これらは次回の課題となり、一つのテーマが一度の発表で終わりになることはありません。厳しいようにも感じられますが、より深い考察を進めていくと、確実に一歩成長したことを実感できます。

そんなゼミでは、自然とその人の専門分野というものが出来ています。同じ作品が題材であるのに不思議なことですが、毎週誰がどのような発表をするのか、とても楽しみになります。自分の発表時は全力投球、疲労困憊となりますが、苦楽を共にする仲間と、とことん一つのことに打ち込むことはなかなか得難い経験です。卒業して、社会人になっても大切な思い出になると思います。

《白石ゼミナール》

私たちのゼミは、今年から始まった新しいゼミです。ゼミ生は全員男子学生で、二十六名います。少し多いのですが、説明会の時にはもっと択山の希望者がいました。ですから、一期生である二十六名は、とてもやる気のある学生ばかりなのです。

体育の教員である白石先生のゼミは、スポーツ関連ゼミとして発足しました。ですから、ゼミ生のほとんどがサッカー・バスケットボール・野球などのスポーツ経験者であり、スポーツ大好き人間ばかりなのです。

ゼミの内容は、三年の春セメで将来自分の進む方向を決めるための手段のひとつとして、キャリアデザイン・スポーツマネジメントのプロが、とてもためになる話やアドバイスをして下さいました。また、スポーツボランティアを推奨している企業の方が、企業としての取り組みと個人のボランティアへの参加状況や、ボランティアを行う意味などを、ていねいに話して下さいました。

三人の講師の方々は、自分達ゼミ生の為に仕事を休んでまで講義をして下さった事に、心から感謝をしております。

秋セメからは、サービス介助二級取得の授業が始まります。車イスの操作や、目の見えない人の手引きなど、これから向かうであろう高齢化社会に役立つ資格であると思っています。ゼミ生全員が合格する事が目標です。

これから、紅一点の白石先生と二十六人は一生忘れる事のない程、楽しくて有意義なゼミ生活を送っていきたいと思います。なにしろ、やる気のあるゼミ生ばかりですから。

学生相談室だより53

カウンセラー・教授　改田　明子

大学の夏休みが始まります。新入生の皆さんもだいぶ大学生活になじんできたようです。お子さんも、自分なりのペースができてきた頃でしょうか。

今回は、大学にあまり来ない大学生について、ご紹介します。

大学の外で自分の道を模索し、自分の道を決めようともがきながらこの時代を過ごすのは、今も昔も変わらぬ、大学に来ない大学生のひとつの姿でしょう。そのような学生には、自分なりに納得できる結論が出るまで、多少回り道でも試行錯誤を応援したい気持ちになります。

その一方で、大学に来ない生活が一種の習慣となってしまって、なかなかそこから抜けられないという学生もいるようです。夜のアルバイトなどの負担が多い場合も大学に来るきっかけをなくしてしまいがちです。学校に通わない日を積み重ねるほど、行きにくくなるものです。今さら行ってもしかたがないという気持ちも起こってくるかもしれません。また、久しぶりに出席して、先生に怒られるのではと気に病む学生もいます。休むほどに、大学に対して複雑な気持ちが積もって、素直に行ってみようかなと思えなくなってもくるようです。

もし、お子さんが、こんな、大学に対して複雑な気持ちを持ちつつ悶々としているようなら、お伝えください。このあたりでちょっと気分転換してみませんか、と。

学生相談室では、ご本人が今後の生活をどのように進めてゆきたいのか、考えるお手伝いをしています。相談という、慣れないことをしてみること自体が、ちょっとした気分転換になる場合もあります。

また、習慣の問題が大きければ、うまく生活が軌道に乗るようにお手伝いもします。その他、ご本人の必要に応じた支援をオーダーメイドで一緒に考えてゆきます。どうぞお気軽に学生相談室をご利用ください。親御さんからの相談もお待ちしています。

第一回役員会開催

平成十八年度第一回役員会が、六月二十四日（土）柏校舎で開催されました。

当日は、清水新会長をはじめとして新役員六名を含めた十三名の役員が出席しました。

役員会では、本年度の役員の業務分担（広報・企画）、年間活動予定、さらに父母会報第五十三号の編集等について審議しました。

次回役員会は、九月十六日（土）の開催が予定されております。

創立百三十周年高校生大学生漢詩コンクール

二松学舎創立百三十周年記念事業の一環として、次のとおり漢詩コンクールの作品を募集しております。奮ってご応募ください。

対象　高校生、大学生

募集　作詩部門　絶句または律詩

詩題は「風・空・海・山」です。

鑑賞部門　唐詩の鑑賞文

（高校生のみ）（八〇〇～一二〇〇字程度）

表彰　優秀作品には賞状と盾ならびに副賞を授与いたします。

締切　平成十八年九月八日（金）

※詳細については、二松学舎大学学務課までお問い合わせください。

電話　〇三（三二六一）一二八五

編集後記

紫陽花が咲き、夏がやって参りました。お届けする会報は、年四回発行され、季節毎の本学学生や父母会に関するホットなニュースでうまっていると思います。どうぞご愛読下さい。原稿が足りないわけでもないのですが、父母の皆様の投稿をお待ちします。投稿欄を作ってそこに全国の父母の皆様のお考え、ご意見・ご希望などを載せたいと願っています。

さて、二松学舎大学は日本の漢学の中心的存在です。いろいろな公開講座が開設されています。父母会員の皆様方の積極的な受講をお待ちします。漢詩の講座や書道の講座等知的興味を満足させられる講座がとりそろえてあるということです。私たちがこれから勉強しても決して遅くないですものね。むしろ楽しい事です。

本年度の地区別父母懇談会が七月中に全部終りました。読者の皆様も大勢様参加なさったでしょうか。

夏の盛りを迎え、日まわりが咲き、蝉が鳴き、麦ワラ帽子、青空に入道雲、夕立、と真夏の中にひたることが出来る季節が参ります。と思うと目にはさやかに見えねどもすぐに秋風が吹いて参ります。せめてよい盛夏をお過ごし下さいませ。

学校法人二松学舎（二松学舎大学・同附属高等学校・同附属沼南高等学校）の平成17年度決算、18年度予算の概要を掲載いたします。

学校法人二松学舎　平成17年度決算の概要

平成17年度の状況

入学者数は、大学、附属高校、沼南高校とも16年度に比べ低下し、学生生徒等納付金は減少、補助金収入もほぼ横ばいであったが、これらの収入減を資産運用収入で補う形となった。

主要事業は、沼南高校東校舎の補助金を背景とした防音関連工事、その他必要な施設・設備維持管理工事を行ったほか、教育研究体制の充実および環境改善のため18年度事業計画の一部を繰上げ実施（総額2,400万円）した。また、大学柏校舎および沼南高校の校舎整備を計画し、第２号基本金の組入れ計画を変更したほか、奨学金制度拡充のため第３号基本金を増額した。

なお、「学校法人会計基準」（文部省令第18号）の改正に伴い、当会計年度から改正後の基準によっている。

平成17年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す**消費収支計算書**、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す**資金収支計算書**および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す**貸借対照表**から成っており、それぞれ別表１、別表２及び別表３のとおりである。

１．消費収支計算書について（別表１）

消費収支計算では、17年度帰属収入は50億5,100万円、消費収入は45億9,800万円、消費支出は43億9,200万円となり、2億500万円の消費収入超過となった。

消費収入では、大学・附属高校・沼南高校とも入学者が減少し、大学・沼南高校では在籍者が減少したことにより、学生生徒等納付金・手数料は前年度比減少となった。一方、資産運用等の収入は1億6,600万円と前年度比倍増した。このほか、雑収入の増加は退職に対する私大退職金財団からの交付金である。

消費支出のうち人件費の増加は、定期昇給・給与格差是正の実施と退職給与引当金に係る私大退職金財団への掛金の差額を調整計上したことによるものである。

(1)消費収入の部について

①学生生徒等納付金は、大学・附属高校・沼南高校とも入学者が減少し、大学・沼南高校で在籍者が減少したことにより、前年度に比べ1億1,800万円減少した。

②補助金は、経常費補助金が前年度比1,700万円減少したものの、沼南高校で千葉県経常費補助金が1,500万円増加し、同校東校舎防音工事に対し国庫補助金約2,500万円が交付された。

③資産運用収入・資産売却差額は、資産の効率的運用により前年度比で資金運用収入が6,500万円増、保有有価証券売却差額が2,400万円増となった。

④基本金組入額の内訳は、第１号基本金として固定資産の取得で1億4,000万円、第２号基本金として大学柏校舎・沼南高校整備資金2億6,300万円、第３号基本金として新たに奨学基金5,000万円を組入れた。

(2)消費支出の部について

①人件費は、給与格差是正、退職給与引当金繰入額の増加により前年度比1億4,500万円増加した。

②教育研究経費は、大学柏校舎修繕費が1,200万円増加したが、業務委託費の7,500万円減少（前年度に導入した情報システムの初年度経費との差額）等により、前年度比3,500万円減少した。

③管理経費は、前年度比1,200万円減少した。

④基本金取崩額は、附属高校固定資産の除却によるものである。

２．資金収支計算書について（別表２）

資金収支計算では、資金運用のための有価証券の購入・売却が前年度に比べ大幅に増加し、収入・支出ともに前年度比増加した。また、退職給与特定資産、校舎整備特定資産、第３号基本金引当資産への繰入れがあり、これらの結果、17年度末の次年度繰越支払資金は、前年度末より17億9,300万円減少し、35億1,800万円となった。

３．貸借対照表について（別表３）

資産の部は、今年度は大きな設備投資がなく、減価償却の進行により有形固定資産が減少した。また、運用財産として有価証券・施設整備のための特定資産が前年度に比べ増加し、その他の固定資産は前年度末より28億9,500万円の増加となった。流動資産は、債券の購入等により現預金が減少した。

負債の部は、退職給与引当金、前受金の増加により、前年度比1億7,000万円増加している。

基本金の部は、固定資産取得により第１号基本金に1億4,000万円、大学柏校舎整備資金・沼南高校整備資金として第２号基本金に2億6,300万円、奨学基金として第３号基本金に5,000万円を組入れたことにより、前年度比4億3,300万円の増加となった。

この結果、貸借対照表は、平成17年度末で資産の部245億2,900万円、負債の部43億6,900万円、基本金の部161億6,000万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収入超過額40億円となり、正味資産（基本金の部・消費収支差額の部の合計）は201億6,000万円となった。

４．主要な消費収支計算書関連比率について（別表４）

財務比率は、概ね良好である。平成17年度消費収支関係比率では人件費比率（人件費の帰属収入に占める割合）がやや上昇したが、管理経費比率（管理経費の帰属収入に占める割合）、消費支出比率（消費支出の帰属収入に占める割合）、消費収支比率（消費支出の消費収入に占める割合）、補助金比率（補助金の帰属収入 に占める割合）とも良好な水準を保っている。

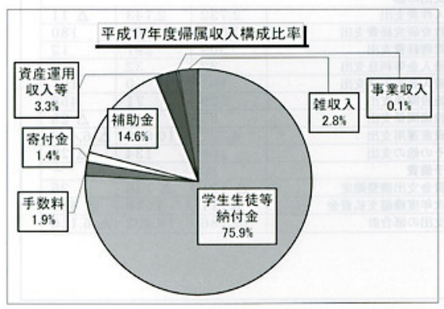
別表１　消費収支計算書　単位：百万円

科　目	平成17年度	平成16年度	増　減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,832	3,950	△118
手数料	96	106	△ 10
寄付金	73	72	△ 1
補助金	736	720	17
資産運用収入	126	61	65
資産売却差額	40	16	24
事業収入	7	0	7
雑収入	140	95	45
帰属収入合計	5,051	5,019	32
基本金組入額合計	△453	△484	31
消費収入の部合計	4,598	4,535	63
消費支出の部			
人件費	2,794	2,649	145
教育研究経費	1,223	1,258	△ 35
管理経費	334	347	△ 12
借入金等利息	32	32	0
資産処分差額	7	2	4
徴収不能額	2	1	1
消費支出の部合計	4,392	4,290	103
当年度消費収入超過額	205	246	△ 40
前年度繰越消費収入超過額	3,775	3,529	246
基本金取崩額	20	－	－
翌年度繰越消費収入超過額	4,000	3,775	225

別表３　貸借対照表　単位：百万円

科　目	平成17年度末	平成16年度末	増　減
固定資産	20,290	17,567	2,723
有形固定資産	12,358	12,530	△ 172
その他の固定資産	7,933	5,037	2,895
流動資産	4,239	6,133	△ 1,895
資産合計	24,529	23,700	829
固定負債	2,981	3,031	△ 50
流動負債	1,387	1,168	220
負債合計	4,369	4,198	170
基本金	16,160	15,727	433
翌年度繰越消費収支差額	4,000	3,775	225
負債・基本金・消費収支差額合計	24,529	23,700	829

注　別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。



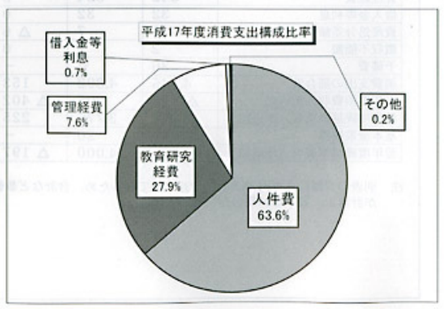
別表２　資金収支計算書　単位：百万円

科　目	平成17年度	平成16年度	増　減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,832	3,950	△ 118
手数料収入	96	106	△ 10
寄付金収入	43	64	△ 20
補助金収入	736	720	17
資産運用収入	126	61	65
資産売却収入	7,591	3,091	4,500
事業収入	70	0	7
雑収入	140	95	45
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	989	895	94
その他の収入	443	824	△ 381
資金収入調整勘定	△ 1,013	△ 1,047	34
前年度繰越支払資金	5,312	4,125	1,187
収入の部合計	18,302	12,883	5,419
支出の部			
人件費支出	2,743	2,655	87
教育研究経費支出	869	936	△ 67
管理経費支出	297	314	△ 17
借入金等利息支出	32	32	0
借入金等返済支出	0	1	0
施設関係支出	71	84	△ 13
設備関係支出	113	95	18
資産運用支出	10,670	3,395	7,275
その他の支出	134	181	△ 46
資金支出調整勘定	△ 146	△ 122	△ 24
次年度繰越支払資金	3,518	5,312	△ 1,793
支出の部合計	18,302	12,883	5,419

別表４　主要な消費収支計算書関連比率　単位：%

比　率	計 算 式	平成17年度	平成16年度	15年度全国平均
人件費比率	人件費/帰属収入	55.3	52.8	54.2
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	24.2	25.1	29.2
管理経費比率	管理経費/帰属収入	6.6	6.9	10.0
消費支出比率	消費支出/帰属収入	87.0	85.5	95.4
消費収支比率	消費支出/消費収入	95.5	94.6	109.5
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	75.9	78.7	65.5
補助金比率	補助金/帰属収入	14.6	14.3	13.7
基本金組入比率	基本金組入額/帰属収入	8.8	9.6	12.9

注　「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による学生生徒数３千～５千人の大学法人（114法人）の平均を示す。



学校法人二松学舎　平成18年度予算の概要

平成18年度の状況

平成18年度は、17年度に策定した中長期的課題 ①教育・研究の推進 ②大学両学部、附属高校、沼南高校の更なる改革 ③入口・出口対策と広報の充実 ④キャンパス整備（大学、高校）⑤人員計画の推進と事務組織の見直し ⑥財務改革（財務の中長期見通し）・創立130周年記念事業の推進の６項目に沿って教育環境の整備や学生生徒支援、財務改革等の施策を進めて行く。具体的には、大学柏校舎の体育館の耐震・改修工事、九段・柏校舎図書館施設の各種改善、沼南高校南校舎の耐震工事、附属高校の改修・アメニティの向上等、教育・研究環境整備と防災機能の強化に向けて、キャンパス整備を行う。また、論語等各種シンポジウムの開催、ＣＯＥ活動の推進、教育研究助成の推進、初年次教育の充実、附属図書館収蔵貴重資料のマイクロフィルム化・デジタル化等の特別事業を実施するほか、貸与奨学金制度の創設を含む奨学金制度の抜本的改善を図る。また、出資事業会社の立ち上げによる収支の改善等を図って行く。これらにより、キャンパス整備に伴う第２号基本金を５億円、奨学基金に係る第３号基本金を5,000万円組入れた後の消費収支差額は支出超過の1億9,700万円となる見込みである。

かかる状況下、財務運営については一層の経費の見直しを行うとともに、安全性を考慮した資産運用等により収支改善を図ることを平成18年度の予算編成方針とした。

平成18年度の収支状況

1.消費収支予算について（別表５）

(1)消費収入の部について

①収入の柱である学生生徒等納付金は、大学、附属高校および沼南高校で在籍者数の減少により前年度実績と比べ、2,900万円減少し、38億300万円を見込んでいる。

②寄付金は、創立130周年記念事業、６年後の135周年記念事業に伴う募金活動を計画・開始すること等により、前年度700万円増の8,000万円を見込んでいる。

③補助金は、私立大学等経常費補助金および東京都（附属高校）、千葉県（沼南高校）からの補助金が減少となる見込みであるが、沼南高校東校舎の防音工事実施に関わる補助金1億600万円を織り込み、８億1,000万円を計上している。

④資産運用等収入は、資産の効率的運用を行い、２億2,900万円を見込んでいる。

⑤基本金組入額は、大学・附属高校・沼南高校整備資金として５億円の第２号基本金の組入れを、奨学基金として5,000万円の第３号基本金組入れを行い、沼南高校の防音工事ほか固定資産の取得額である第１号基本金組入見込額と合わせて7億3,700万円を計上している。

(2)消費支出の部について

①人件費は、27億3,700万円と、前年度より5,700万円減少を見込んでいる。

②教育研究経費は、同施設・設備の改善費用の増加と情報システム関連経費の増加等により、前年度比1億7,900万円増加し、14億200万円を計上している。

③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費等の増加により、前年度比800万円増加し、3億4,200万円を見込んでいる。

これらの結果、帰属収入は50億8,400万円、基本金7億3,700万円組入後の消費収入は43億4,700万円、消費支出は45億4,400万円となり、1億9,700万円の消費支出超過の見込みである

2.資金収支予算について（別表６）

学生生徒等納付金の減少並びに前受金収入の減少等により、収入・支出とも前年度に比べて減少の見込みである。次年度繰越支払資金（現金・預金）は31億1,100万円となり、前年度比4億700万円の減少を見込んでいる。

別表５　消費収支予算　単位：百万円

科　目	平成18年度予算	平成17年度実績	増　減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,803	3,832	△ 29
手数料	97	96	1
寄付金	80	73	7
補助金	810	736	74
資産運用収入	179	126	53
資産売却差額	50	40	10
事業収入	2	7	△ 5
雑収入	63	140	△ 77
帰属収入合計	5,084	5,051	33
基本金組入額合計	△ 737	△ 453	△ 284
消費収入の部合計	4,347	4,598	△ 251
消費支出の部			
人件費	2,737	2,794	△ 57
教育研究経費	1,402	1,223	179
管理経費	342	334	8
借入金等利息	32	32	0
資産処分差額	1	7	△ 6
徴収不能額	2	2	0
予備費	30	－	－
消費支出の部合計	4,545	4,392	153
当年度消費収入超過額	△ 197	205	△ 402
前年度繰越消費収入超過額	4,000	3,775	225
基本金取崩額	－	20	－
翌年度繰越消費収入超過額	3,803	4,000	△ 197

注　別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

別表６　資金収支予算　単位：百万円

科　目	平成18年度予算	平成17年度実績	増　減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,803	3,832	△ 29
手数料収入	97	96	1
寄付金収入	77	43	34
補助金収入	810	736	74
資産運用収入	179	126	53
資産売却収入	3,600	7,591	△ 3,991
事業収入	2	7	△ 5
雑収入	63	140	△ 77
借入金等収入	1	0	1
前受金収入	819	989	△ 170
その他の収入	106	443	△ 337
資金収入調整勘定	△ 888	△ 1,013	125
前年度繰越支払資金	3,518	5,312	△ 1,794
収入の部合計	12,186	18,302	△ 6,116
支出の部			
人件費支出	2,732	2,743	△ 11
教育研究経費支出	1,049	869	180
管理経費支出	309	297	12
借入金等利息支出	32	32	0
借入金等返済支出	101	0	101
施設関係支出	529	71	458
設備関係支出	85	113	△ 28
資産運用支出	4,222	10,670	△ 6,448
その他の支出	108	134	△ 26
予備費	30	－	－
資金支出調整勘定	△ 121	△ 146	25
次年度繰越支払資金	3,111	3,518	△ 407
支出の部合計	12,186	18,302	△ 6,116